

角川書店新本社ビル

建築主：株式会社 角川書店 角川歴彦
 設計者：株式会社 大林組 浦 進悟 中村雅友
 施工者：株式会社 大林組 鶴田信夫 堀 長生



建築概要

建設地：東京都千代田区富士見一丁目 12-11,15
 建築主：(株)角川書店
 設計：(株)大林組東京本社一級建築士事務所
 施工：(株)大林組東京本社
 竣工：1999年9月
 建築面積：789.93㎡ 延床面積：7,908.73㎡
 階数：地上8階、地下2階、高さ：38.2m
 構造種別：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）免震構造

選評

角川書店新本社ビルは東京都千代田区富士見に位置する。

富士見界隈は坂が多く、1階分の高低差があり地下2階、地上8階建ての事務所・図書館・店舗及び共同住宅からなる複合施設である。

この高低差を生かした玄関ホールや図書室など施設全体に知的な雰囲気を感じられる建築となっている。

さて、従来の免震構造の採用は「安全性の確保」を目的としてきたが、最近では構造体の制約の少ない使いやすいやさやスレンダーな部材の美しさ、さらに経済性を求めるという多様な目的で採用されるようになってきた。

そして、角川書店新本社ビルはその新しい流れの中にあると考えられる。

大地震時にも書籍ラックが倒れないような耐震性の確保、階高を小さく、大スパンとしたフレキシブルな事務所空間の実現、さらに柱頭免震（中間階免震）の採用、鉄筋コンクリート造柱＋鉄骨造梁（ピン接合）構造の導入、新型耐火被覆の開発など経済性の追求と多様なクライアントの要望に答えた作品である。

合わせて、免震建築の痕跡をまったく消してしまった免震建物外周スライド部のディテールなど含めて免震建築に対する高い熟練度を感じる作品として評価する。
 （石原 直次）

免震化した経緯及び企画設計等

【耐震性への社会認識の高まりと、外観デザインとの整合】
 計画が丁度阪神大震災後にあたり、当時高まっていた耐震性能に対する社会認識と合致していた。また、隣地に建つ旧・角川書店本社（現・同社第二本社）がパラッツォ・ファルネーゼ（ルネサンス期、ローマ）をデザインモチーフとしており、古典的な壁の多い外観が免震構造に適していた。以上を踏まえて免震構造を提案し、採用された。

【免震化の効果】

大地震時においても、書籍ラックなどの家具が倒れないような高度な耐震性を確保することができた。また、地震時の建物の変形が小さくなり、外観の特徴であるガラスカーテンウォールの部材をシャープにすることが可能となった。外装タイル壁面とガラス面とで表現した「新旧の対比」という外観デザインのテーマをより明解にあらわすことができた。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

【目立たないエキスパンションジョイント】

免震建物に特有の免震クリアランス部に、機能性、美観性がよく段差のないディテールを採用した。免震建物であることを感じさせないように構成されている。

【柱頭免震構造】

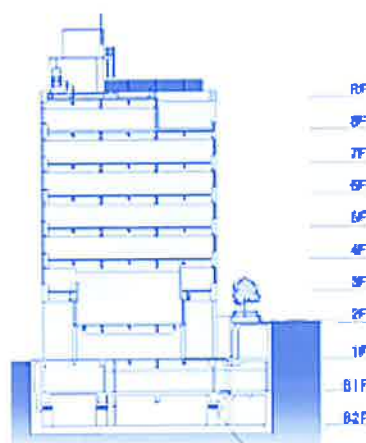
免震層の有効利用、敷地の有効利用、定期点検のアクセスの良さから地下2階柱頭免震構造を当社ではじめて採用した。

【鉄筋コンクリート柱＋鉄骨梁構造】

地震力を外壁鉄筋コンクリート壁に100%負担させ、ロングスパン部にRC柱＋鉄骨梁構造を導入し、耐震性と経済性を兼ね備えた構造システムを実現することができた。

【免震装置の耐火被覆材の開発】

耐火被覆には美観性、経済性に優れた新型の耐火被覆材（FIRE CATCH™）を開発し導入した。



免震装置

断面構成



免震装置耐火被覆材
 FIRE CATCH™